

過去、現在、未来の自己供養がいかに大事なことなのか、もつと真剣に取り組んでいかねばと思う。命がけでやってきただろうか、死に物狂いでやってきただろうか。いかに自分に甘かったか、「アルバートに心を向けていってください」というメッセージを聞かせていただいて、ズシーンと心に響いた。いつも自分の動機と目的を確認しながら、いつも原点に戻って学び続けていくことの大しさと、心癖ゆえにその難しさを思った。常識、知識を重んじ、その範囲で理解できることしか受け入れない自分が、意識の世界もそんな狭い範囲でしか受け止めきれていない自分を思う。そんな心を抱えながらアルバートに心を向けてきたことの愚かさを思う。